



早いもので、もう師走です。ご存知かもしれませんが、師走とは、師（お坊さん）が走るほど忙しい月と言の意味です。しかし、今年は1年中走っていた気がします。またそれが楽しくて仕方ありませんでした。多分、私の前世は回遊魚だったのでしょう。

首里城を想う 良啓

十一月一日の早朝、いつもの様にSNSを開くと、

首里城火災

の文字が飛び込んできました。寝起きの為か、頭の中が????でしたので、ニュース速報を片っ端から読み漁りました。そこでやっと、今、首里城が燃えていることを理解しました。

私のご先祖様が首里の士族だった為、清明祭は首里末吉の墓に行きます。小学校の受験発表は、琉大の首里キャンパスでした。今年の春先に公開された御内原を、見学に行こうと、のんびりと構えていた私は、ただ動揺して、初めて首里城の偉大さに惹かれていた事に気が付きました。

今回の火災を含め、首里城は五回炎上しています。そして、その度に復興されてきました。しかし、あれだけの大きな建造物です。簡単に資材や職人を集める事は難しいと聞きました。そうなる、継続的な支援が必須となると思います。早速、中学の先輩でヴァイオリニストの與那嶺理香さんが、音楽を通じて、息の長い支援活動を行うと発表しました。神宮寺も微力ながら、お手伝いしたいと思います。

そして、復興された首里城の庭で十五夜お月見をしたいですね。高校生の頃、首里の予備校を、抜け出し、首里城の城壁から見上げたお月様は、本当に美しく、今でも大切な思い出です。



神宮寺本堂に「間切図」登場！

寺務員 三原

一〇月上旬より、神宮寺本堂の掲示板に国指定重要文化財の「間切図」を掲示しております。

皆様はもうご覧になりましたか？

「間切図」とは、一八世紀中頃に琉球王府が当時の最先端の測量技術をもつて作成した測量図です。当時の行政単位であったエリア（間切）ごとに色分けされ、村の名前や御嶽、主要な道などが記載されています。平成二八年には、これらの学術的な価値が認められ、国の重要文化財に指定されました。

そんな間切図に、なんと「神宮寺」の名が記されておりまして、これをどうしてもお寺に飾りたくて、この度、沖縄県立博物館の学芸員の方に申請し、画像データを送ってもらいました。赤色で塗られた宜野湾間切の中に、「神宮寺」の字が見えます。二五〇年前の測量図に記された神宮寺、当時はどんなお寺だったのでしょうか。

拡大コピーしたものが本堂右手の掲示板にございますので、お参りの際には是非ご覧になってください。

国指定重要文化財「間切図」(沖縄県立博物館 美術館所蔵)

中頭南(西原間切・浦添間切・宜野湾間切・中城間切)18世紀

